

分布：全国

ウマノアシガタ (キンポウゲ 科)

学名：Ranunculus japonicus
ラヌンクルス ヤポニクス

馬の足形 別名：キンポウゲ(金鳳花)、駒の脚形、癩(オコリ)落とし、毛萇

主な生育場所

日当たりの良い林縁や路傍、水田や畑の畦、草地、ため池の堤防などにみられる。やや乾いた場所を好む。少し山がちな農地周辺に多くみられるが、平地の水田や畑周辺では、あまり見かけない。

特徴

多年生植物で、中空の茎が直立し、高さ30～60cmほどになる。茎には白い毛が密生する。根出葉には長い柄があり、掌状に切れ込む。茎の上部に行くほど葉は線形となり、3裂片に深く切れ込む。花は径1.5～2cmの黄色の5弁花で、花弁の表皮に光を反射する細胞層がある。種子には短いくちばしがあり、集まって金平糖状となる。



名前の由来：3深裂する葉を馬の蹄(ひづめ)の形に見立てたという。また、光を浴びて花びらが金色に輝くように見えることから、金鳳花。

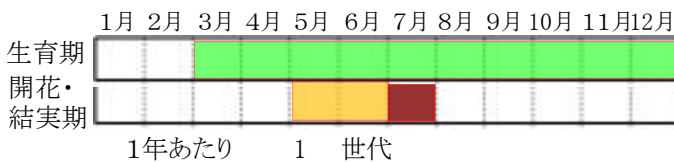
<農業との関係>

畦や水路沿い、路傍などにみられるが、水田内や畑内部に発生することはほとんどない。しかし、有毒植物のため、放牧地では害草となる。また、家畜の飼料に混ざらないように注意する必要がある。家畜への中毒症状は、口内の腫脹、胃腸炎、疝通、下痢など。重症となると、呼吸困難をきたし死に至ることもある。



群生している様子

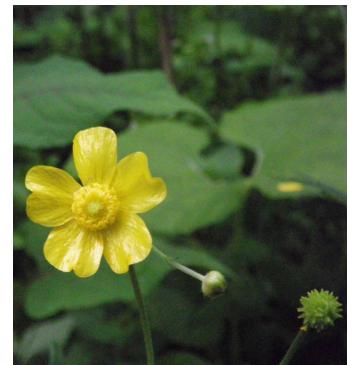
<生活史> 関東 地方の例(目安)



<類似種> 水田内や畦、水路際など湿った場所には、同属でやはり有毒植物のキツネノボタンやケキツネノボタンが生育するが、花は小さく径1cmほど。また茎の上部の葉は線形とならないことなどで区別できる。

<一言うちく>

馬のひづめに葉の形状が似ていることから、「馬の足形」とされますが、とてもそのようには見えません。一説には、「烏(カラス)」の字を「馬」と読み違えたのではないかとされています。確かに、3深裂の葉は、カラスの足形としたほうが、しっくりときますね。



5弁花と果実(右下)

<人との関わり合い>

全草が有毒植物なので食用とはならない。しかし、民間薬として、生汁を米などに練り込み、リュウマチや歯痛などの外用とすることもある。また、中国ではマラリヤや頭痛の薬としても利用されているようだ。

花が大型できれいなため、観賞用として品種改良も行われ、八重咲きのものを特にキンポウゲと呼ぶ。

<俳句や短歌への登場>

【季語：春】

田をうるころにて畦に黄の花の金鳳花など咲くふるさとは (佐藤佐太郎)

温かに洋傘(かさ)の尖もてうち散らす毛萇(きんぼうげ)こそ春はかなしき (北原白秋)

火薬庫へ径ひとすぢちに金鳳花 (堀内雄之)